

## 議長定例記者会見 会見録

日時：令和3年10月7日 10時30分～

場所：全員協議会室

### 1 冒頭の挨拶

### 2 質疑項目

○岸田新首相への期待について

○三重県知事選挙結果について

○知事の所信表明について

○三重とこわか国体・とこわか大会の延期断念への対応について

### 1 冒頭の挨拶

(議長)おはようございます。記者の皆さまには、大変ご多忙中と申しますけれども、この席に来ていただきましてありがとうございます。ただ今から10月の議長定例記者会見を始めさせていただきます。本日は発表事項は特にございません。三重県議会からも、去る9月13日に正副議長からのメッセージとして発信したところで、皆さまご承知のところと申しますが、現在の新型コロナウイルスの感染拡大状況や、昨日から始まりました9月定例会月会議について、少し所感を述べさせていただきます。

昨日、10月6日までの、県内における新型コロナウイルスの感染者数は延べ1万4千人を超えまして、亡くなられた方は163人となっています。亡くなられた方々には心からお悔やみを申し上げます。また、感染された方々にお見舞いを申し上げます。そして、早期の回復をお祈りしたいと思います。

8月27日から県内全域に発令されていた緊急事態宣言は9月30日に解除となりましたが、本県では独自の措置として、10月1日から10月14日まで、四日市、鈴鹿、亀山、津の4市において飲食店への営業時短要請が出されています。該当地域の事業者の皆さんには大変、引き続きご苦勞をかけるわけでございますけれども、ご協力をお願いしたいと思います。県民の皆さまにおかれましても、今後も高い警戒感を持ちながら引き続きの感染拡大防止の取り組みをよろしくお願い申し上げます。

次に、9月定例会月会議についてでございます。昨日、予算案1件、条例案3件、その他議案6件が提出されました。いずれも重要な議案であり、今後、本会議や常任委員会等において審議し、11月1日、採決が行われる予定でございます。このうち、一般会計補正予算約19億円につきましては、現在本県が

独自の措置として行っている営業時短要請に伴う飲食店への協力金などの経費が含まれていますので、本会議や常任委員会等において早急に審議を行いたいと思います。そして、今回、新知事とは初めて、代表質問や一般質問において、知事のめざす県政運営等について政策論争を行うこととなります。二元代表制の下、しっかりと議論し議会としての責任を果たしていきたいと考えております。

最後に、今年も一年間の議会の主な活動を振り返る「あなたが選ぶ！三重県議会の活動ベスト10！」を12月の会見で発表したいと考えております。少し予告になりますけども、今年の投票期間は11月11日から12月10日までの1カ月を考えておりまして、日程が近づいてまいりましたら資料提供させていただきますのでよろしくお願いいたします。

そして一つ。嬉しいこともありました。9月25日だったと思いますが、女子サッカーなでしこリーグ1部において、「伊賀FCくノ一三重」が優勝されました。誠にめでたうございます。なでしこリーグ1部の初代チャンピオンという偉業を達成されましたことは県民の誇りでございますし、その戦う姿は県民に勇気と感動を与えるものでございました。今後のさらなるご活躍も大いに楽しみにしております。

私からは以上でございます。ありがとうございました。

## 2 質疑応答

(質問) ありがとうございます。幹事社から特にありません。各社さんお願いします。

### ○岸田新首相への期待について

(質問) 岸田新内閣の印象、受けとめ。それから、衆議院選挙の日程が確定したわけですけど、それへの受けとめ、所感があれば。

(議長) 一つ目が、岸田内閣誕生についてですね。二つ目が衆議院選が近づく、その辺りがちょっと聞こえなかったんですが。

(質問) 衆院選が近づいていることへの、日程がほぼ確定していることへの所感です。

(議長) 今回総裁選も行われ、そして、岸田新首相が誕生されたわけでございます。岸田首相には、国民の声をしっかり受けとめていただいて、なんかこう手帳もいろんな書き留めてもらっているようですけども、新型コロナウイルス感染症対策や経済の回復等のために尽力されるということを期待してござい

す。さらに、知事も少しおっしゃってたかな、地方に目を向けていただける方であると思いますので、歓迎しているところでございます。

衆議院選もほぼほぼ日程が確定したと報道等で知っているところでございますが、これは、10月中にもうすべてが、解散も選挙中も投開票も行われるということでございますので、はっきり言いまして早く結論を出して、そして、11月から本格的なスタートを国政もしていただいて、県政もそれに伴うこともたくさんございますのでしっかりと、私としては県政をしっかりととることができるような期間が確保できるなと喜んでいるところでございます。以上でございます。

(質問) 副議長もお願いいたします。

(副議長) 議長も言われたとおりですけれども、いろいろと新型コロナウイルス感染症の対策とか経済の回復など今非常に大事な時期ですので、岸田新総理がリーダーシップを発揮していただいて、しっかりやっていただけたらなと期待したいというふうに思います。

—第二県政記者クラブの方も含めてお願いします—

### ○三重県知事選挙結果について

(質問) 前回定例会見が9月6日だったんで、前回は。

(議長) はい9月最初でした。

(質問) 9月12日に知事選の投開票があって、さかのぼって恐縮ですけど、今回自民党さんと、あと新政みえさんとか立憲さんとか連合さんとか、相乗り候補の知事が誕生したんですけど、そこについての何かご感想があれば、お伺いします。

(議長) これは、各党とか県連レベルでご相談されたことだと認識してございますが、結果的に一見知事を推薦される場所が多かったように思います。結果として、9月12日に結論が出てスタートがされるということで今進んでいるわけでございますけれども、それはそれとして、戦い方のことを言ってみえるのかと思いますけれども、安定した形で県政が継承されて、そしてさらには、国は国としてこれから衆議院選も始まるわけでございますけれども、先ほども記者さんにお答えしましたけれども、11月には本格的にまた県政に没頭ということでできるわけでございますので、それはそれなりの評価はあるかなと思ってお

ります。

(質問) 副議長はいかがですか。平成7年から、7年当時新政みえさんできてなかったですけど、非自民系の県民連合であるとか県政会とか、もともと7年知事選においても相乗りは駄目だと、単独候補を立てられて、ずっと一貫してそういう流れだったじゃないですか。今回は一応そこに自民さんと手を結んで統一候補を出されたという形で誕生したことなんですけど、それについて何かご感想があれば。

(副議長) 過去といろいろ状況が違いますので、今回は鈴木前知事が突然辞められての突然の知事選であったということと、それから新型コロナウイルスの状況の中での選挙だったということと、あと三重国体が迫っていたということも考えると、今回それぞれ両党派が話し合いをして、いい人材がいればその方をつけていうことでやられたというのは、そういう判断は妥当であるのではないかなというふうに思います。

(質問) 要は、過去、今の立憲さんとか旧民主、連合さんとかが主張してきた相乗りは駄目だと、特に岡田さんトップにそういうことを言われてたんだけど、そののところとは状況が違うんで、これはこれでベターの選択だということですか。

(副議長) そうですね。

#### ○知事の所信表明について

(質問) 昨日の所信表明というか提案説明の中で所信表明的なことがあったんですけど、あれをお聞きになって率直な何か感想があれば副議長からお願いします。

(副議長) 率直な感想ということですので、私ずっと聞かせていただいて、真面目でそつがなく非常に安定感があるというか、その中にもしっかり信念のある、そういう所信だったかなと感じています。

(質問) 太平洋の防波堤になるとかいうところは引っかからなかったですか。

(副議長) 引っかかるというのはどういう意味ですか。

(質問) 意味がよくわからないんですよ。太平洋の防波堤になる、私は、って

言うのが。軍事的な意味なのか、それなのかわからないし、出典もわからないじゃないですか。漏れ聞くところによると、旧海軍の南雲中将がそういうことを言ったっていう話なんですけど、中曽根さんの古く不沈空母という言い方もあるし、その辺のことがわからないし、いきなりあれが出てきて何となく軍事色を感じてしまう人もいると思うんで、何かそういうのでご感想がなかったかなと思って。

（副議長）特に別にそれが軍事的などうかは一切思いませんが、ただそういう強い思いで、確か新型コロナとか、少子化に対して、自分が防波堤になるつもりで、少子化を食い止め、新型コロナを食い止めるという、その趣旨で発言されていたと記憶していますので、強い信念を示されたのかなと思っています。

（質問）議長はいかがですか。

（議長）正直、直感ですけど、その時に聞かせてもらったときに感じたのは、経歴に海上保安庁というようなこともございましたし、南海トラフもいろいろと近づいてきているというようなこともありますので、いろんな防災対策含めて太平洋の防波堤になるということで、しっかりした対応を取っていきたいという思いで、その表現をされたのかなと私は感じています。誰にも確認していませんけど。

（質問）二本松藩の碑文、戒石、要は漢語が並んで警句みたいなものを使われてるんですけど、それは聴政もそうなんですが、テレビだけ見ると、提案説明は記者とか議員の方は当然お持ちなんで目で追って分かるんですけど、テレビだけ見る人の場合はあの漢字だけ並べられても意味は多分、分からないと思うんですね。その辺含めて、三谷県議はできるだけそういうのは分かりやすく説明したほうがいいし、できたら避けたほうがいいってことは、注意されたということだったんですけど、知事が突っ走られて、そのまま使われてるんですが。県民に分かりやすい、分かりにくいという点ではどう感じられましたか。

（議長）深い見識をもたれてこれから、今までも、歴史等に興味があり、そういったことに敏感に、政治に関わることについての引用をされたのかなと思っています。それをご披露されたわけでありまして、思いとしてはその思いを出したかったのだと思いますけど、ただ表現について、県民の受けとめ方については、徐々に、より分かりやすい発信のされ方に変化されていくのかなと思います。

(質問) 7年に北川知事が誕生した時に、割と議会での発言等で英語が多用されていると。これは分からないじゃないかと、当時の県議会から申し入れて、必ず英語を言った後に、例えばリテラシーなら文献であるとか、そういう日本語を付け加えて、北川さんは途中で修正されたんですけど。今回の提案説明1回目ですけど、その分かりにくさについて議会である程度知事と話されるときに、もう少し提案説明を持たない県民にも分かるような形での表現の仕方はないとか、そういうご注文をつける気はないですか。

(議長) 姿勢として、知事の姿勢はしっかり県民の声を聞いて、議会も含めての話ですけども、しっかり聞いてっていう姿勢でいらっしゃると思いますので、自分の思いと、今度は県民、いろんな方々のアドバイスを素直に受け入れながら、それを融合してより分かりやすい発信をされていくんじゃないかなと期待しております。

(質問) 要は今後、ある程度修正してくるだろうし、そこは1回目だからとりあえず見守りたいということですか。

(議長) そうですね。

(質問) どうも。

### ○三重とこわか国体・とこわか大会の延期断念への対応について

(質問) 今、議長は中止になった国体について、議会として9月定例会議中などに何か対応されようとしていることなどはありますか。

(議長) 国体のことにつきましては、9月22日の全員協議会、さらには24日の実行委員会等でいろんな、さまざまな思いが出てまいりました。その時点においては、議会としては何らかの形の思いを受けとめて、どういう形になるか分からないけども、またいつになるか分かりませんが、整理できた段階で何らかの形で発信をしたいなという思いは、副議長とも相談しております。ただ、時期が熟さないと、どういう形っていうのは見えてきませんので、ある程度、県議会の皆さん方が納得する内容、時期をこれから諮っていきたいと思っております。思いとしては、選手の方、競技団体の方、市町の方々の思いを素直に受けとめて、今後の国体の在り方等も含めて発信できるかなという気持ちはございます。以上です。

(質問) 国体、三重県だけの話ではなくて、一見知事も判断の難しさであったりとか、国体の在り方について、またそういった中止になったことに伴う選手へのサポート、そういうところに課題があるような、となってくると三重県だけではなくて、全国の話ですから、当然議会としてそれについて動くというのであれば、意見書のような形であったりとか、考えられると思いますけれども、そういったことを出すお考えというのは今ございませんか。

(議長) 先ほども言いましたけれども、時期とか内容についてはこれからであろうと思いますけれども、先ほど記者言われましたように、意見書、これまでもたくさんの意見書を政府等に提出して、そういった一つのルールがあろうと思いますので、それも一つの方法かなと思っております。これは、今も言われましたように、三重県だけのことじゃなくて、国全体、文部科学省やいろいろな団体等のこともありますので、そういったことも三重県としての一つの発信の方法かなとは思っております。

(質問) 他に質問のある方いらっしゃいますか。よろしいですか。では、これで終わります。ありがとうございました。

(議長) 大変ありがとうございました。今後ともどうぞよろしく申し上げます。

( 以 上 ) 10時50分 終了